

自主制作事業における業務では、音楽ホールを含む数字であるが、美術部門のデザイン、舞台設備・備品の準備や仕込みまでも、一般職員で対応しているケースも多い。ただし、舞台設備の操作は常駐委託のスタッフの比重が高い。

約100施設で、ホールに常備していない設備・備品の手配をしていない。舞台技術部門を民間委託している場合には、その会社に設備・備品がある可能性もあるが、利用者による手配にまかせていると考えられる。

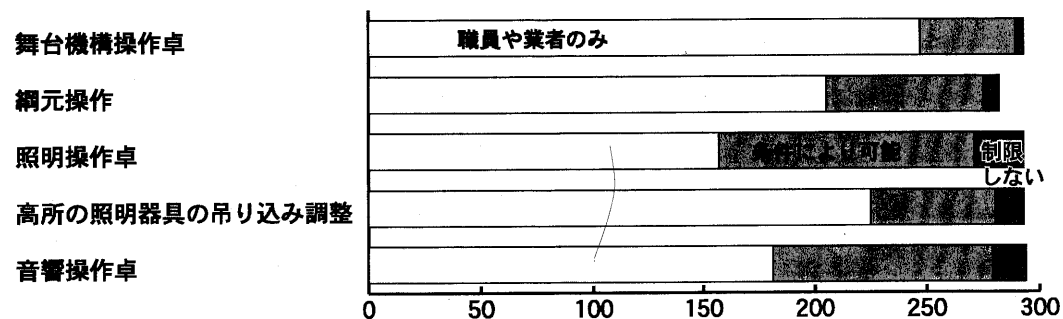
常駐委託会社スタッフの比重が低いのは「一般への舞台技術の講習・研修」であり、専門職員が対応しているホールが17%あるが、実施していない施設が最多で3分の2を占めている。見方を変えれば、専門の技術職員を配置しなければ、一般に対する講習・研修は難しいということであろう。

#### 4. ホール利用者への対応

危険を伴う舞台設備のオペレーションについて、利用者による操作を制約しているか否かを聞いた。

表-18/図-16 一般の利用者による操作の制限

作業	回答数	職員や業者のみ		条件により可能		制限しない	
		施設数	(%)	施設数	(%)	施設数	(%)
舞台機構操作卓	293	247	84.3	42	14.3	4	1.4
網元操作	282	205	72.7	70	24.8	7	2.5
照明操作卓	294	157	53.4	114	38.8	22	7.5
高所の照明器具の吊り込み調整	294	225	76.5	55	18.7	13	4.4
音響操作卓	294	181	61.6	98	33.3	15	5.1



調光操作卓や音響調整卓が、条件付きで開放しているホールが多いということは、演出に直接関わる操作は利用者が行うべきだが、一定の技術水準は要求しているということだと考えられる。

綱元操作についても、仕込み時の操作だけでなく、演出に関わっての操作が行われる。しかし、重量物の場合、カウンターウェイトとのバランス調整や操作は、プロでも熟練されていないと難しく、失敗は人身事故に直結しかねない。そのために、専門家に限っている施設が多いと考えられる。

綱元操作を制限していないとの施設もあるが、必ず職員がサポートを行う等の対応が行われていることが望まれる。

表-19/図-17 舞台技術に関する知識等のない利用者への対応

	都道府県	政令指定市	広域組合	人口10万以上	人口10~3万	人口3万未満	計	(%)
依頼の業者が対応	21	5	4	73	49	9	161	53.7
専門の職員が対応	26	7	3	48	30	9	123	41.0
一般の職員が対応	11	2	3	37	33	23	109	36.3
専門の会社を紹介	23	3	2	30	19	13	90	30.0
利用者で対処	6	4	-	11	6	1	28	9.3
ボランティア等紹介	1	-	2	3	5	8	19	6.3
無回答	-	-	-	1	1	-	2	0.7

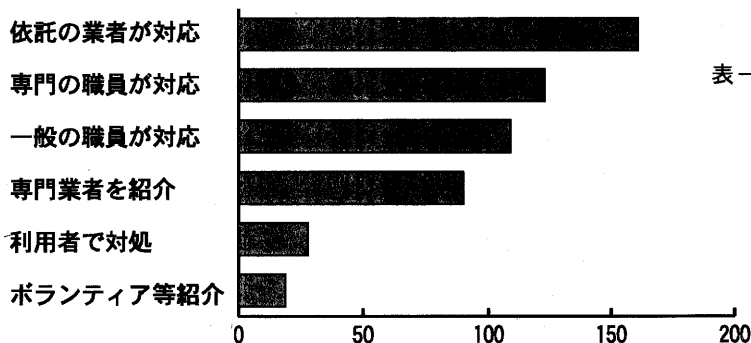


表-20 紹介する会社の立地

	件数	(%)
市町村内	20	22.2
都道府県内	31	34.4
都道府県外	8	8.9
無回答	38	42.2

一般の利用者にとっては、舞台技術について、必要性さえ知らないというケースもありうる。その対応については、やはり、常駐委託の民間会社のスタッフが対応する施設が最多であり半数以上である。

ただし、必要性を説明するにとどまるか、実際にデザインや仕込みまでを行うかまでは、それぞれによって違っていると考えられる。

表-21 利用者用の資料の有無

		主なホールの規模(席数)						計	(%)
		1500 以上	1200 以上	1000 以上	800 以上	500 以上	500 未満		
利用料金表	常備	77	66	50	36	42	13	284	94.7
	なし	0	2	0	0	2	0	4	1.3
	その他	1	3	2	1	0	0	7	2.3
設備の仕様等の解説書	常備	28	21	14	9	16	3	91	30.3
	なし	40	45	33	22	23	9	172	57.3
	その他	6	3	4	3	3	0	19	6.3
舞台設備・備品リスト	常備	74	64	43	34	38	13	266	88.7
	なし	1	1	6	3	2	0	13	4.3
	その他	3	5	3	0	4	1	16	5.3
舞台設備・備品の利用料金表	常備	76	68	49	36	39	14	282	94.0
	なし	0	1	1	0	4	0	6	2.0
	その他	1	2	2	1	1	0	7	2.3
舞台仕込用平面図	常備	78	70	49	36	40	13	286	95.3
	なし	0	0	0	1	2	1	4	1.3
	その他	0	1	3	0	2	0	6	2.0
舞台・吊り物類断面図	常備	70	54	39	32	36	11	252	84.0
	なし	6	4	7	3	7	3	30	10.0
	その他	2	3	5	1	1	0	12	4.0
楽屋平面図	常備	69	63	40	29	31	10	242	80.7
	なし	5	2	8	6	11	3	35	11.7
	その他	2	4	3	1	2	1	13	4.3
客席配置図	常備	78	68	50	36	43	13	288	96.0
	なし	0	0	0	1	1	1	3	1.0
	その他	0	2	1	0	0	0	3	1.0

舞台技術の管理業務にとって、利用者に施設や設備の状況を的確に知らせることは、基礎的な役割である。

ほとんどの施設では、基礎的な資料は常備しており、常備していない施設でもコピー等で随時対応は行っている場合がある。ただし、「舞台設備の仕様等の解説書」を常備している施設は約3割であった。